

1 学校教育目標
「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」

2 学校経営ビジョン
(めざす学校像) 【スローガン】 子どもが喜んで登校し、親が安心して通わせる学校に (めざす児童像) 1. たくましい体 「た」・・・健康に気をつけ、体力を養う子ども《体》 2. いたわりの心 「い」・・・思いやりの心を持ち、友だちと助け合う子ども《徳》 3. しっかり勉強 「し」・・・よく話を聞き、進んで勉強する子ども《知》 (めざす教師像) 1. 教育のプロであるという意識をもつ教師 2. 子どもの思いに共感し、子どもの人格を尊重する教師 3. 組織の一員であるという自覚をもつ教師 4. 教育公務員としての自覚をもつ教師 5. 報告・連絡・相談をこまめにし、保護者や外部への対応を迅速かつ適切に実行できる教師 6. 職場内でのコミュニケーションを図り、自らも生き生きとした教師 7. 保護者や地域と連携し、保護者や地域に信頼される教師

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
○ 新学習指導要領の移行措置を適切に行い、学習指導法の研究に努め、学力の向上を図る。 ○ 生徒指導の充実を図る。 ○ 健康安全教育の充実を図る。	・ 全校児童に定着してきた「めざす児童像」であるが、内容を児童に理解させるだけでなく、毎月の点検、反省をもとに、しっかり定着できるよう職員共通の意識のもと、実効ある取組を強化、継続する。その上で、学力の向上及び生徒指導の推進、健康安全教育の推進という3本柱で浸透させていく。 ・ 本年度、開校77年目を迎える。唐津第一中学校、長松小学校とともに、「心の教育」の推進に向け、連携を図りながら研究を深め、実践していく。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	◎学校経営方針	本年度教育目標及び重点目標の周知	教職員・児童・保護者に周知させる。特に、保護者に対しては、認知度を70%とする。	A	・ 再度学校目標を修正し、機会あるごとに学校便り等で紹介し、情報交換も毎月実施した結果70%強であった。 ・ 職員会議、全校朝会で説明し、言動として表れるように、浸透させる。 ・ 学校だより、PTA総会、役員会等で具体的取り組みを説明する。	・ めざす学校像における、児童の意識や職員の周知に関して90%の高い数値結果であった。 学校目標に対する保護者の周知度についても、内容を修正し、学校便り、役員会等で毎回情報を収集・公開した結果、かなり向上したと言える。
	○開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	「教育の日」の来校者の延べ人数、600人をめざす。また、定期的な授業参観の来校者数、70%をめざす。	A	・ 「教育の日」の来校者は参観634名、午後のバザーにも754名の参加があり、多くの方に来ていただいた。 ・ 保護者への積極的な案内を行い、来校を促す。 ・ 第一中学校校区連携での町内施設への広報活動を行う。	・ 保護者ばかりではなく、児童の祖父母や地域の人の来校も定着してきた。また学校行事をはじめ、学習規律や生活指導における現状についての広報啓発活動も積極的に行った。そのため参観日における来校者数も平均で世帯数329人を上回る360人超の結果となった。
	◎学校保健安全委員会	児童の健康・安全管理体制の充実	委員会を年2回開催し、学校医等の指導や助言を健康管理に生かす。	B	・ 児童の健康状態や健康教育等について話ができ、学校医等からの助言を受けられることができた。委員会は1回しか開催しなかった。 ・ 毎日の朝と帰りの会の健康観察及び週1回のエチケットタイムで児童の健康面に関して異常の発見に努める。 ・ 日々の安全チェック、定期的な点検を分担強化し、事件・事故防止に努める。	・ 健康観察や担任との情報交換を密にし、児童の心身の健康状態を把握した。そして必要に応じて保護者への連絡へとつなげた。校内巡視や安全点検、情報交換等で児童の健康安全面に関して、相談・対応ができた。今後も更に、危機管理意識を高めていくことが必要である。
	○校種間連携	北部養護学校との連携	北部養護学校との交流を年2回以上実施し、児童理解・支援の方法を学ぶ。	B	・ 本年度は養護学校の都合で交流会が実施できなかった。 ・ 養護学校児童との交流を行う。 ・ 養護学校職員を招き研修会を持つ。	・ 講師を招聘し、通常学級にいる発達障害の児童の理解と支援について研修会を持つことができた。全職員で共通理解をし、支援の方法などの研修を深めることができた。
教育活動	◎学力向上	校内研修において積極的な研究授業を行う。	各学級1回以上の授業提案を行う。	A	・ 各学級1回の授業提案ができた。 ・ 各学年グループ1回の全校授業研を行った。 ・ 指導法を工夫したり改善したりして、指導技術の向上を図る。 ・ 講師を招聘して指導・助言を仰いだり、小中、小小連携での研究を推進し、学力を図る。	・ 全学級が全校研もしくはグループ研の提案授業を行い、指導法の工夫・改善のための検証授業を実践した。 ・ 小中連携による学習規律の定着推進及び家庭学習における学習習慣の実践化を図った。
		基礎基本の定着を図る手だてを工夫する。	CRT検査において前年比3ポイント以上向上させる。	B	・ 全体としては国語も算数も向上しているが、学年間で差があり、まだまだ引き上げる必要がある。 ・ わかる授業、楽しい授業をめざすとともに、スキルタイム、「家庭学習のすすめ」等手だてを学校全体で取り組み、定着させる。	・ 高学年でかなりの伸びが見られたが他の学年においては、国語における活用力及び算数における基礎において、まだ課題が残る。86%の児童が「授業が分かる」といっているが、さらなる授業改善の努力が望まれる。定着の状態は個人差がまだ大きいため、下位の児童が自信を持てるようスキルに力を入れる必要もある。
	◎学習環境	心とらぐ学習環境の整備に努める	個の存在が見える教室環境づくりを工夫する。	A	・ 教室内に限らず、廊下や階段に、子どもたちの学びの足跡が見える掲示を工夫している。 ・ 個々の児童の成長や変化及び変容が見える、教室環境を定期的に整備する。	・ 個々の児童の作品フォルダーの設置と定期的な掲示の張り替えを行った。また、学習の足跡が分かるように教室や廊下・階段に学びの記録を掲示し、定期的に更新しながら子どもたちの興味・関心、意欲を継続させた。

	◎心の教育	「朝の読書」の推進と継続	時間いっぱい集中して読書する子どもを育てるとともに、週1回の保護者による読み聞かせの充実を図る。	A	静かで落ち着いた朝のスタートができた。	・毎朝の読書、保護者による朝の読み聞かせの改善・充実を図る。	・全校一斉に読書をすることで、落ち着いた朝のスタートができた。 ・週1回の保護者の方の読み聞かせで読書への感心が更に高まっている。来年度は読み聞かせの保護者と担任との交流も図りたい。
		道徳の時間の充実	年1回以上保護者が参観する授業を行う。	A	保護者参観の道徳の授業が実施できた。	・参観日を利用して各学級道徳の授業を行う。 ・心のノートの活用促進を図る。	・年1回以上は保護者参観時に道徳の授業を実施することができた。また、子どもたちに生活アンケートを実施し、状況を把握するとともに、心を育む教育実践に生かしてきた。
	◎健康・体力づくり	基本的な生活習慣の育成	早寝、早起き、朝ご飯の実践を奨励し、「朝食を食べる子90%以上」をめざす。また、「昼休みは外で元気に遊ぶ子90%」をめざす。	A	朝食に関しては、ほぼ100%達成できた。昼休みは寒い冬でも外で遊ぶ子が多かった。	・「早寝、早起き、朝ご飯」の大切さについて、便り等で保護者への理解を深める。 ・毎朝の朝の会で健康チェックをする。	・担任による健康チェックにより、家庭との連絡も十分できた。ただ、連携が難しい家庭が一部あり、いかに「早寝・早起き・朝ご飯」を定着させるかが課題である。特に早寝に関しては高学年で課題である。
	○校内環境美化	清掃活動の充実	ゴミのない美しい学校にするため、進んでゴミを拾う児童60%をめざす。	B	掃除は熱心にするが、進んでゴミを拾う児童は50%もない。	「掃除がんばりカード」等の取組を行うなど、進んで美化活動に取り組もうという態度を養う。	・全職員による徹底した指導を心がけたため、掃除に関しては意識が向上した。ただ、普段の生活からゴミをなくそうとする行動はまだまだである。
特定課題	◎小学校低学年の学習環境改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	次の4項目について達成率80%をめざす。 ①チャイム着席を守る。 ②元気のよい挨拶をする。 ③人の話を最後まで聞く。 ④宿題はきちんとする。	B	挨拶自体はよくなってきたが、自分から進んで元気に挨拶のできる児童はまだ半数程度である。	・話を聞く約束事を決める。 ・毎日、朝の会・帰りの会で4項目のチェックをする。	・チャイム着席と授業への集中に関してはかなり向上してきたが、挨拶に関しては、自分から進んでやる児童はまだ十分とは言えない。宿題や家庭学習に関しては、きちんとやる子が増えてきたが、まだ指導が必要な子もいる。
	○幼・保・小連携	校区内幼稚園・保育園との連携の充実	連絡会を年2回実施する。 ①幼稚園教育や保育の内容を理解する。 ②園児の学校訪問を行い、簡単な交流会を行う。	① A	校区内の幼稚園・保育園との連絡会と交流会を併せて2回実施し、それぞれの園との交流は密にできた。	・年間行事を知らせ、園児・児童の交流や公開保育等への参加を促す。	・校区内の幼稚園や保育園との連絡協議会を1回、交流会を1回実施した。また1月～2月には、低学年の担任が、幼稚園や保育園に出向いて、入学予定児の情報交換を行った。低学年においては、幼稚園・保育園との連携を今後も続けていきたい。
	○特別支援教育	個を大切にしたいきめ細かな指導の充実	各学期1回、報告会を実施する。 ①支援が必要な児童の理解を深める。 ②担任との連携を密にする。	B	各学期1回の報告会及び全体研修会が実施でき、児童理解については深まった。	・担任や級外職員はもちろん、全職員で支援にあたる。 ・関係機関や保護者との連携を図る。	・講師を招聘しての校内研修など、職員の特別支援に関する理解の向上を図り、担任や級外はもちろん全職員で支援にあたることができた。ただ、個々の児童の担任と親学級担任との連携については、まだ十分とは言えない。
	◎人権・同和教育	一人ひとりを大切にしたい学校・学級づくりを推進する	特別支援教育とリンクさせながら、校内研修を計画的に実施し、児童はもちろん教師自身の人権意識・人権感覚を高める。	A	特別支援教育研修とリンクさせ、人権(気になる子)に関する研修会を3回実施した。	・特別支援教育とリンクさせた年3回の児童理解や人権意識高揚を図る校内研修を実施する。 ・校外における研究会に積極的に参加し、人権・同和教育の理解促進を図る。	・人権週間を位置づけ、全校で人権意識の高揚を図る取組を実施した。また、人権(いじめ)に関するアンケート調査も併せて実施した。さらに、本年度は全国大会が佐賀で開催されたため、多くの職員が参加し、問題意識を高めた。

6 総合評価

学校運営に関しては、教育目標に対する職員の意識や児童の理解において、おおむね良好であった。また、協力と連携で重要な保護者の周知に関しても、情報発信を含め工夫した結果、向上できた。また学習面においても、国語科における基礎言語力の育成を中心に、表現力や読解力向上をめざした学び合いの指導法を工夫し、授業改善を継続したため、全体としては基礎的な学力の向上が見られた。ただ、国語における活用力及び算数における基礎的な理解の定着においては学年間で差があり、課題が残る。一方、教育活動における「心の教育」「健康・体力づくり」の面では、昨年同様目標が達成された。また、特定課題における特別支援教育については、関係部会を計画的に開催し、講師を招聘して研修会も実施したが、親学級担任との連携等について、今後工夫の余地が残る。

7 次年度への課題・改善策

本年度は、昨年度以上に良好であったと言える。特にめざす児童像にある「健康に気をつけ、体力を養う子ども」「よく話を聞き、進んで勉強する子ども」に関して、朝食摂取率を含め、「衛生面でも健康的な生活を送り、元気に外で遊ぶ子どもの姿」が目立った。また、チャイム着席と授業中の集中においてもかなり定着が図られた。掃除の取組においても全職員の徹底した指導によりかなり向上してきた。その一方で、「徳」に関する心の面では、基本的な生活習慣の一つである「挨拶」「言葉遣い」など、まだまだ教師の指導がないと主体的な言動までには至っていない。そこで、これまで以上に定期的に生活指導面の状況を把握し、職員全体の意識の共有の中で、重点課題を設定し取り組む必要がある。その上において、積極的かつ継続的指導がなされたときに、学校経営ビジョンの確立に迫れると言える。ただ、本年度は保護者からの情報収集、学校からの情報公開を密に実施したため、PTA役員を中心とした保護者の理解と協力が得られ、いわゆるクレームはほとんどなかった。そのため、今後予想される多様な問題・課題を柔軟に克服していくための基盤はできつつあると言える。「開かれた学校」という観点から、今後もさらに情報公開と学校運営に関する目標の周知徹底を継続していきたい。